

年中行事 むかしの直方のお正月

お正月は年神をお迎えし、これからの一年の幸せを祈る行事です。



元旦：早朝一家の主が若水をくみ、神棚に供え、家内安全を祈る。

お屠蘇をいただき、栗の木で作った栗合い箸で雑煮を食べる。栗合い箸はお金の繰り合わせがよいようにと縁起を担いだもので、元旦のお節料理から7日の七草がゆまでこの箸を使う。

雑煮は、ブリの切り身その他、カシワ、かまぼこ、野菜などの具を串に刺しておく。丸餅を湯で柔らかくして、澄まし汁を注ぐ。子どもは、四方拝の式のため登校。氏神に参り年始回りをするのは男性で、女性は出歩かなかった。

2日：仕事始め 書初めの日 商家は初売り、初荷をする。

7日：七草がゆを食べ、長寿と無病息災を祈る。

14日：もぐら打ち、とんど焼き、ほけんぎょうなどと呼ばれる日。竹で地面をたたき、畑を荒らすもぐらを追う行事をする。しめ縄を一か所に集めて燃やし、残り火で餅を焼くどんど焼きをする。子どもにはうれしい行事。

16日：藪入り。雇い人が里帰りをする。「酒を買っても人の気に入れ」といわれている日で、人の機嫌を損なわないようにした。



《新年式から名刺交換会》

明治18年福岡県布告によって新暦励行のため、新年式の挙行がすすめられた。直方では明治34年、町有志の集会在呼びかけられた。日露戦争後は、全町民に参加を呼びかけ、大正15年1月1日から、町と商工会の共催で、名刺交換会として開催された。

「直方市史 下巻」 NL219ノ
「福岡県の郷土料理」 N386ケ
「福岡県の冠婚葬祭」 N385ケ



直方あの頃

昭和25年～昭和27年

終戦から数年が経ち、高度経済成長中だった1950年頃、直方市では、どんな出来事があったのでしょうか。また、この年は、どんな年だったのでしょうか。

昭和25年(1950年)

10月 第一回直方市体育大会を開く
この年、女性の平均寿命が初めて60歳を超える

昭和26年(1951年)

4月 直方市制二十周年記念式を行う
この年、第1回NHK紅白歌合戦放送

昭和27年(1952年)

9月 円徳寺が移転を始める
この年、スクーター、プリーツスカートが流行



郷土の人々

ほり さんたろう 実業家 堀 三太郎



堀三太郎（1867～1958）は、現在では歴史に埋もれて、知る人もいなくなりましたが、貝島、麻生、伊藤、安川と並ぶ実業家です。直方新町の醤油屋の長男として生まれ、23歳で小竹町の御徳炭鉱の経営をまかされます。堀三太郎が実業家となるきっかけは、海軍鉱区の払い下げを受けたことからです。中間市、嘉穂、田川、篠栗の炭鉱を次々に手に入れ、直方に堀鉱業会社を設立します。炭鉱で成功した堀三太郎は、銅山や金山経営や製塩会社、産業セメント会社や東邦電力、筑豊電気軌道の経営、鞍手銀行の創設など、国内外にわたり多数の事業を手掛け、九州屈指の実業家となっていきます。

巨万の富を築いた堀三太郎ですが、72歳になった時、事業の整理をはじめます。これは自分の子どもたちは、それぞれ自分の力で進むべきという信念を持っていたためです。その後三太郎は、直方の邸宅を引き払い、福岡で余生を送り、92歳の生涯を閉じます。

直方には明治40年に直方三中のあたりに農園を開き、農家の増加と後継者育成に取り組みました。また明治30年に許斐鷹介らと発起人になり、劇場寿座を設立し多くの市民に親しまれました。また邸宅は維持費をつけて直方市に寄贈され、公民館として市民に利用されてきましたが、平成9年から修復にかかり、直方歳時館に生まれ変わりました。今では和風建築を生かした生涯学習施設として多くの方に利用されています。

『ふるさと人物記』 NL281ケ

『ふるさと直方人物誌』 N281ノ



はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもっていただくきっかけになればと思っています。

『絵はがきに見る「筑豊の明治・大正・昭和」 平原健二コレクションの世界』

王塚装飾古墳館/NL219チ

『ふくおか絵葉書浪漫 平原健二・畑中正美コレクション』

海鳥社/N219ケ

『美しき九州 「大正広重」 吉田初三郎の世界』

益田啓一郎編/海鳥社/N291タ

直方市立図書館

直方市山部 301-1 コメニティのおがた内

TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902

<http://www.yumenity.jp/library/library.htm>